
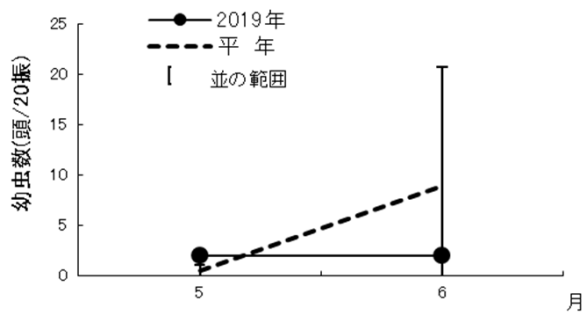


作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	① バッタ類		
予報	7 月の発生量 (平年比)	-	
	6 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

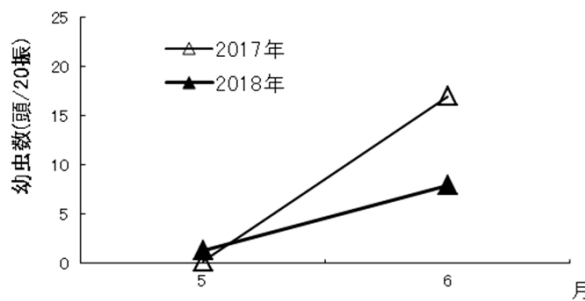
調査結果

今年と平年の推移



バッタ類の発生推移


過去2年間の推移



バッタ類の発生推移

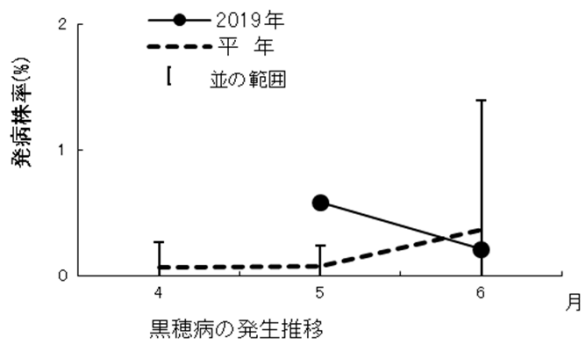
防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草を徹底する。
- ・ 幼虫期の防除が効果的なので、ほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

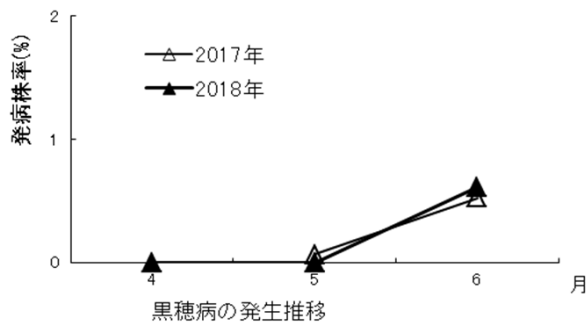
作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	④ 黒穂病		
予報	7 月の発生量 (平年比)	—	
	6 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移

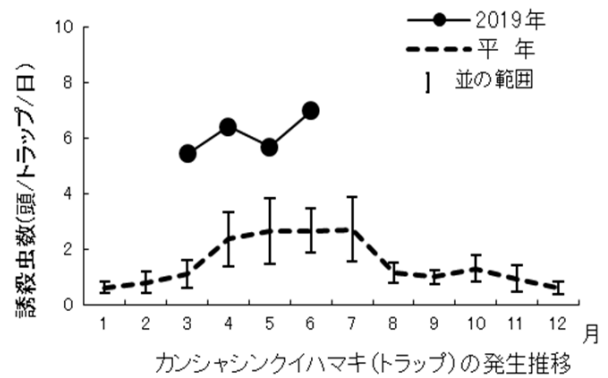
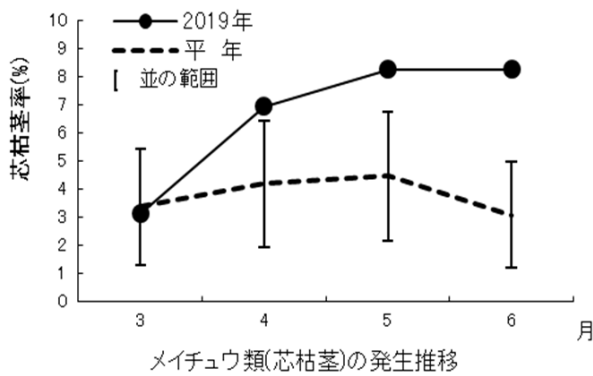


防除のポイント

- ・発生は4月頃から見られ、6～7月に多くなる。
- ・胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。
- ・発病ほ場やその隣接地から採苗しない。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	7 月の発生量 (平年比)	-	
	6 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)		


調査結果



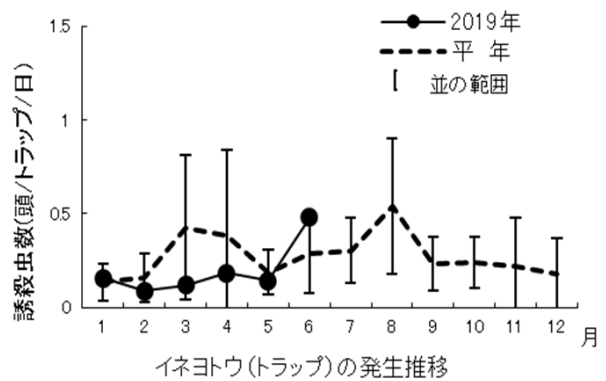
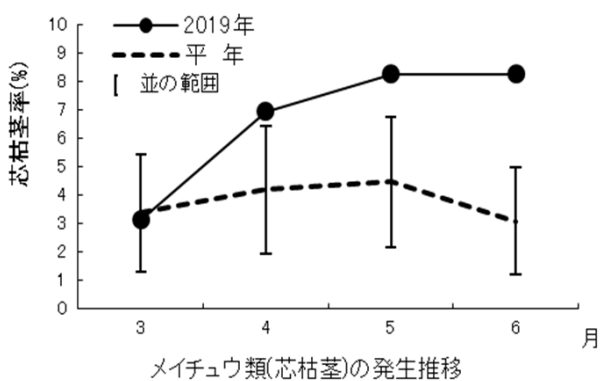
- ※ 茎内で発見したメイチュウ類 (28頭) のうち、27頭 (96%) がカンシャシクイハマキであった (沖縄本島)
- ※ 病害虫防除員 (久米島) の報告 : 多発 (メイチュウ類)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	③ メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	7 月の発生量 (平年比)	-	
	6 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)		

調査結果



※ 茎内で発見したメイチュウ類 (28頭) のうち、1頭 (4%) がイネヨトウであった (沖縄本島)

※ 病害虫防除員 (久米島) の報告 : 多発 (メイチュウ類)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、莖と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。